

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

(第1問) 論述式 (第2問) 論述式 (第3問) 記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

第1問は22行で、これまで続いていた20行から2行増加した。第2問は4行がなくなり、3行が1問、2行が4問で、昨年度にみられた短答記述はなくなった。地図は引き続き出題されたが、解答に必要な地域を読み取るもので、場所を選択させるものではない。総行数は昨年度の12行から11行へ減少した。第3問はこれまで通り設問10問。昨年度の解答数が12個だったのに対して解答数は11個で、昨年度に出題された1行論述は出題されなくなった。

出題の特徴

第1問は近現代で、2014年、2016年、2018年に続き出題された。第2問は近現代のインド・オセアニアと前近代の朝鮮・中国東北地方から出題された。昨年度の第3問は図版・地図・資料を用いた出題で、解答に従来より時間を要したが、今年はシンプルな形式に戻った。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

第1問が22行(660字)となった。600字を超える字数の出題は、21世紀に入って初めてである。第2問では太平洋における赤道以北のドイツ植民地を地図から判断する必要があるが、第3問ではニュージーランドに由来する13植民地を挙げることが求められているように、地図問題そのものを扱っているわけではないが、地理的な理解を求める出題がなされている。

今年度はヨーロッパ史と中国史を中心とする出題が、ほとんどみられなかった。

ズバリの中が第1問と第2問で2題みられた。第1問の「オスマン帝国の解体過程」は、冬期講習「東大世界史」の演習問題(第2講)のオリジナル問題と通じるテーマであり、講座中の提出課題であった。高3の「世界史論述」(第4講)や大学受験科「総合世界史(論述編)」(第15講・第16講)でも、同様のテーマを扱う問題が掲載されている。第2問(1)の「ベンガル分割令」の設問は、直前講習「東大世界史テスト」のオリジナル問題がズバリの中した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述	オスマン帝国の解体過程	「オスマン帝国の解体過程」について、「民族運動」と「帝国の維持を目指す動き」という状況にあわせて情報を取捨選択して論じることが求められている。指定語句のうち、「ギュルハネ勅令」は単にタンジマートを示すだけでなく、オスマン主義(またはムスリムと非ムスリムの平等)を指摘し、「帝国の維持を目指す動き」としても論じたい。「アフガーニー」は、スルタンがパン=イスラーム主義を利用して専制支配を復活させたことと関連させ用いる。「帝国の維持を目指す動き」として、青年トルコ革命後のパン=トルコ主義を指摘し、アラブ人の民族運動とも関連させたい。本問で扱われたテーマは、2018年度の京都大学第1問でも扱われている。	やや難

第2問	論述	国家・境界線からみた歴史	(2) (a) 地図で示された領域は、グアムが除外されているほか、ドイツ植民地のうち赤道北部に限定されている。このことを判断することはやや難しい。(b) ニュージーランドを題材にしているが、事実上イギリス帝国からイギリス連邦への移行を問うている問題と判断したい。(3) (a) 単に4～7世紀の通史を述べるのではなく、「中国東北地方の帰属」「満州と韓半島」といった問題文を踏まえることが望ましいだろう。(b) 文化的影響だけでなく、中国から王として冊封を受けたことについても言及する。	標準
第3問	記述	知識や技術, モノの伝播	問(8)は「飢饉を減らし、人口の増大を支える」とあるので、アメリカ大陸原産の作物なら全て解答になりうるわけではない。解答例で挙げた「ジャガイモ」「トウモロコシ」のほか、「サツマイモ」も解答となる。問(10)マサチューセッツ、ニューハンプシャー、ロードアイランド、コネティカットのうちから2つを記す。プリマス植民地は「イギリスの13植民地」ではないので、解答に入らない。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

第1問は、題意を踏まえていかに歴史的な文章を構成できるかが問われるので、論述力を日々研鑽することが大事となる。第2問は基本的な問題が中心だが、要点を的確に指摘できるように内容の理解を深めておかないと高得点は望めない。第3問は平易だが、第1問・第2問との時間配分にも留意しなければならない。基本知識をしっかり習得したうえで、第1問の大論述だけでなく、第2問の短い論述に対しても十分な準備・対策が必要である。年度ごとに出題形式・字数など若干の違いはみられるが、本質的な学力を求められている点では変わらない。時間軸・空間軸にそって大局的に歴史をとらえることを心がけよう。